

にした発表は皆無であったため、草原氏の企画は新風を吹き込むことに成功したと思う。また、音はVRの基礎技術として重要性が認識されながらもIEEE-VRではそれをテーマにしたパネルは行われておらず、過去のproceedingsを見ても音についてのpaperの数は非常に少ない。4人のスピーカーが多角的にプレゼンテーションを行ったこのパネルは、フロアからの活発な議論を含めて意義深いものであったと思う。

筆者は前回のIEEE-VRではパネルのオーガナイザーを務めたが、パネルセッションは一時間という制約があるため企画運営が非常に難しい。パネリストはある程度数がいないと組み合わせの妙を出すことができないが、その場合全体の時間が限られていると一人一人の持ち時間が少なくなってしまう。さらにフロアも含めたディスカッションの時間をとるとなると、どこかを犠牲にしなければならない。今回の2つのパネルはこの悪条件を高いレベルで克服していたと評価できると思う。

◆ワークショップ担当

中津良平

(株)ATR 知能映像通信研究所

IEEE-VR2001の活動の一環としてワークショップを開催することとした。ワークショップについては、CFPとほぼ同時にCall for Workshopを会議のWebに載せる等により関係者に周知した。その結果送られてきたproposalから、本会議の趣旨に合致しており、かつ内容の優れている以下の3件の応募を採用した。

- (1) Virtual Reality and its Application for Human Centered System
- (2) The Future of VR and AR Interfaces: Multi-modal, Humanoid, Adaptive and Intelligent
- (3) Escaping Reality?!

3つのワークショップともfull dayとし、1を3月13日に2・3を14日に開催した。今回の特徴として、本来のワークショップのありかたである、プレゼンによる問題提起、提起された問題に対する参加者全員による議論、という方式を優先的に採用することとし、ワークショップ2・3はこの方式とした。いずれのワークショップも20人～50人の参加者を得て盛況であった。特にワークショップ2・3はこのような方式に対し好意的な感想が寄せられた。

◆チュートリアル担当

岸野文郎

大阪大学

チュートリアルは、VRに関する最新情報を系統立てて講義するものとして、IEEE-VRでは重要な位置を占めており、例年本会議に先立ち2日間実施されている。本年は他の行事のスケジュールも考慮して1日だけで実施することとし、提案された中から若手の実行委員の意見も参考に、以下の何れも半日コースの5件を採用した。

- Tutorial 1: Advances in the Application of Virtual Environments for Mental Healthcare
- Tutorial 2: Designing and Implementing an Effective Virtual Reality Trainer
- Tutorial 3: Interactive Simulation for Multimodal Virtual Environments
- Tutorial 4: Usability Evaluation Techniques for Virtual Reality Technologies
- Tutorial 5: Virtual Reality for Fun and Profit

最も聴講希望者が多かったチュートリアル3の講師の来日が、航空機のマシントラブルにより1日遅れたため翌日の午前に延期するというハプニングがあったが、関係者の多大なご協力により無事全てを開催することができた。参加者はトータルで約100名であり、いずれのチュートリアルも最新成果を学ぶことができ、かつ活発な質疑応答もあって好評であった。終了後は講師と聴講者による食事会も設定し、さらに議論を重ねるとともに親睦を深めることができたこと非常に好評であった。

◆企業展示担当

野村淳二

松下電工

以下に示す国内の主なVR企業12社が、3月15、16日の2日間に渡り、出展総コマ数18コマの展示を行った。

1. 日本バイナリー (株)、2. (株) エヌ・ケー・エクサ、3. 旭エレクトロニクス (株)、4. (株) クレアクト・インターナショナル、5. (株) スリーディー、6. (株) リアルタイム・グラフィックス、7. (株) 応用計測研究所、8. (株) ビュープラス、9. (株) ソリッドレイ研究所、10. (株) レクサー・リサーチ、11. 三菱プレジジョン (株)、12. 日商エレクトロニクス (株)。